

沙沙那美

本殿遷座祭「遷御」之儀



滋賀県護国神社

社 報

発行所

滋賀県護国神社社務所
〒522 彦根市尾末町1番59号
電話0749(22)0822
印刷 田中印刷所

ご 挨拶

宮 司 山 本 淺 次 郎

沙々那美第七号発刊に当りまして一言御挨拶申し上げます。

時恰も昨年来天皇陛下御在位六十年奉祝並に終戦満四十周年記念に当る良き時に当社御創立百十年の其記念事業として御本殿を始め内玉垣手水舎等の御屋根葺替。さらには永らく社務所内庭に現存しておりました能舞台が彦根城博物館内に移築することになりましたので其移築跡に社務所齋館の増築工事を計画致しまして、御遺族様始め一般の諸賢様方に御無理を御願ひ申し上げました処、早速御聞きとどけ下さりまして、おかげを以ちまして昨年十二月御本殿屋根替を終りまして直ちに御本殿遷座祭を厳肅裡に御齋行を終えて目出たい新春を迎へました。

又社務所増築工事も順序よく事運び本年四月無事竣工致しました。皆様方よりお寄せいただきました誠心の結果が実りまして立派に完成いたしました事、この様な喜ばしい嬉しい事はございません。

御英霊の神々様も如何ばかりお喜びの事と拝察申し上げます。衷心より厚く御礼申し上げます。

靖國神社の問題につきましても、世

上種々取沙汰されましてテレビ新聞紙上等を賑はしておりますが、なぜ全国民総てがすなほなる日本人の心になり英霊を戦場に送った時の気持。「此度は御苦勞様でございます後は引受ました御心配なく」との言葉が残っておったならば、寸時も英霊感謝の気持を忘れてならないのであります。



御本殿等の屋根が葺替えられ、能舞台が無くなり新館が増築された神社の外観

御創立百十年記念事業の歩み

今般の記念事業は、県遺族会を中心にして広く崇敬者一般の方々の絶大なご支援、ご協賛によりまして順調に進捗し、去る四月五日春季大祭に併せて御本殿・手水舎等屋根葺替工事及び社務所斎館増築工事竣工奉告祭を斎行することが出来ました。

さらに、今回の諸工事に伴い、老朽化した社務所内の電気関係や雨樋等の改良工事も、追加付帯工事として途中より計画に入れられましたが、そうした関連工事も、八月七日宮司宿直室増築工事の完了を最後に、一応終了致しました。九月十八日開催の定例役員会の席上、諸工完了のご報告と決算報告を行ない、宮司より改めて御礼のご挨拶を申し上げた次第ですが、ご遺族崇敬者の皆様方へも本社報紙面上から、記念事業の経緯、経過等をご報告申し上げたいと存じます。

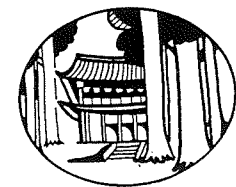
そもそもこの記念事業の起りは、昨年の社報でもお知らせ致しましたように、社務所内にありました彦根市能舞台の移築計画がきっかけとなり、御本殿屋根の雨漏りが決定的理由となつて具体化されたのであります。

役員会で再三協議を重ねて事業計画につき検討を加え、実現に努力してま

いりました。一方、彦根市に対する補償要求も、当神社の長年に亘る不断の維持管理が認められ、また神社役員各位のご尽力もあって、既存建物の復旧補償として誠意ある回答が得られました。このことも、事業推進の上で弾みがついたと思われまふ。

以上のような過程を経て記念事業が進められ、今日の諸工事の完成となつた訳ですが、会議の度にご足労願ひました役員様方、各地区で勧募に当たられ、お世話いただいた市町村遺族会の支部長様、婦人部長様、そしてご寄付下さったご遺族各位、さらには趣旨に賛同してご協賛いただきました一般崇敬者の方々、こういつたお一人／＼のお力が結果して記念事業が成就した訳です。本当に有り難うございました。

皆様方のご意志に添うよう、私共神社職員もより一層精進を積み、神社護持奉斎に努めていきたいと存じます。



60年7月5日 能舞台最後の資材搬出

代表、具体的補償要望書を彦根市に提出。

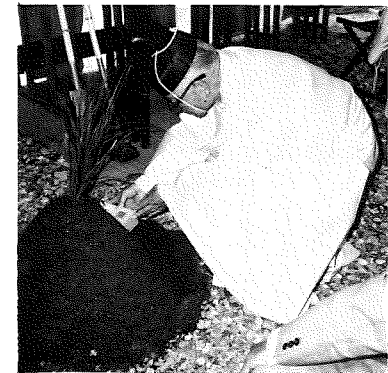
八月五日 臨時役員会に於て記念事業計画の内容を決定。

九月十八日 定例役員会開催、記念事業募金を開始する。

十月十二日 社務所斎館増築工事地鎮祭。終了後常任委員会を開き、業者(増築工事は株式会社伊藤組。屋根工事は田島物産株式会社)と契約する。



穿ち初めを行なう小林責任役員



宮司、鎮物を埋納する

昭和五十九年

六月四日 彦根市より能舞台移築計画を知らされる。

九月十日 定例役員会に於て能舞台移築計画の報告を行ない、この件に関し協議する常任委員会(委員長小林隆責任役員)を設置する。

十二月末 御本殿の雨漏りを発見。

昭和六十年

一月十日 彦根市より正式に能舞台移築のための協力要請を受け取る。

二月六日 彦根市に対し、補償要求要望書を提出。

三月二日 常任委員会、屋根葺替の件及び能舞台跡地利用につき協議。

三月七日 定例役員会に於て前二件の工事を決定する。

五月十八日 常任委員会、前二件を御創立百十年記念事業とする。

六月十一日 臨時役員会開催、役員

十月二十二日 仮殿遷座祭

十二月二日 上棟祭。常任委員会。

十二月十日 神社庁祭式講師と共に本殿遷座祭の打ち合わせを行なう。

十二月二十一日 本殿遷座祭

昭和六十一年

一月二十八日 常任委員会、竣工奉告祭及び追加付帯工事につき協議。

二月二十四日 定例役員会開催、前記二件の承認を得る。

三月二十九日 常任委員出席により清祓式を執り行なう。

四月五日 春季大祭に併せて竣工奉告祭斎行。

八月七日 常任委員会、記念事業収支決算の概要報告を行なう。

九月十八日 定例役員会開催、記念事業諸工事と収支決算の承認。

十二月二日 上棟祭を奉仕



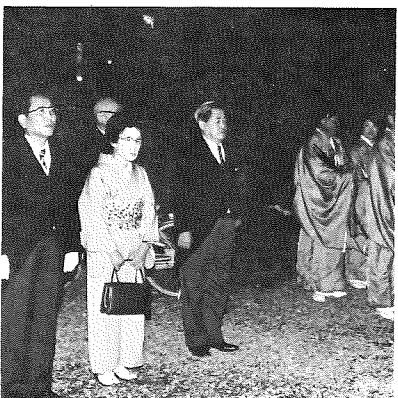
本殿遷座祭

【遷座祭(せんざさい)……神社で行なわれるお祭の中でも最も重儀とされ、とりわけ本殿遷座祭は御祭神が新装の神殿にお還りになることによつて一段と神威が増し給ひ、更に尊い御神徳を感得し新しい活力をいただくお祭です】

本殿遷座祭は昭和六十年十二月二十一日夜浄闇の中、風も無い穏やかな天候に恵まれ、神社本庁よりの献幣使として村田武夫県神社庁副庁長をお迎えし、櫻井勝之進県神社庁長、小林隆崇敬者総代、守田厚子県遺族会長始め、各郡市遺族会ご代表ご参列のもと、厳肅裡に滞り無く斎行申し上げました。

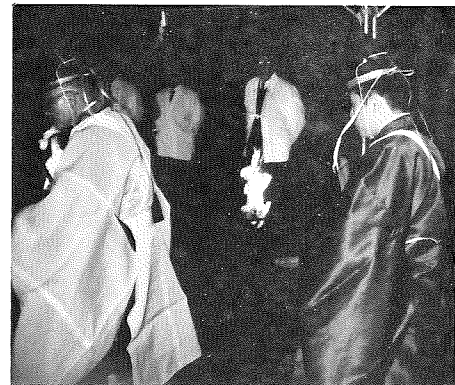
当日は県神社庁祭祀委員会・神道青年会の方々のご協力をいただき、郡市遺族会連合支部長・県遺族会青壮年部役員の皆様方の中から、祭典の中の種々の役割のご奉任をお願い致し、地元彦根市青壮年部の方達には祭典に伴う諸々の世話方をご依頼致しました。皆様方の御陰をもちまして、実に整然と予定通り、護國の御神霊を銅板の屋根が新装なった御本殿へお遷し申し上げますことが出来ました。

年の瀬も近い週末に、どなたもがご多忙の中を枉げてご奉仕、ご参列、ご協力をいただきましたことに対し、厚



ご参列の小林崇敬者総代、守田県遺族会長、櫻井県神社庁長

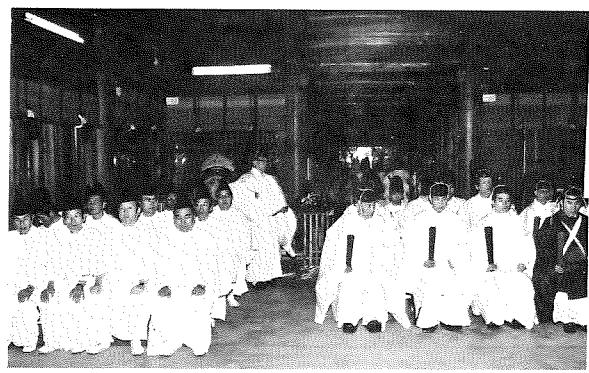
く御礼を申し上げます。と同時にまた、生涯に一度あるか無いかのこの盛儀に関与出来ることの仕合わせを、皆様がお感じいただいたことであろうと存じます。(この遷座祭の様子はビデオに収録してありますので何時でもご覧いただけます。)



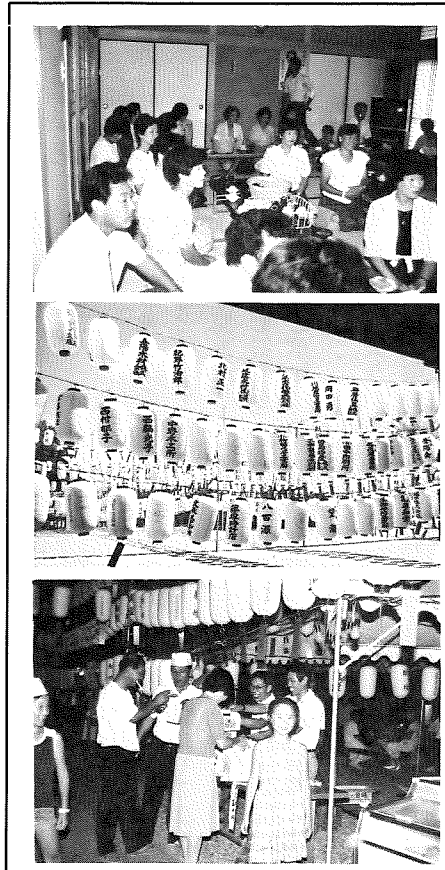
かがり火の中仮殿へ参進する宮司、祢宜



ご参列のご来賓、各郡市遺族会ご代表

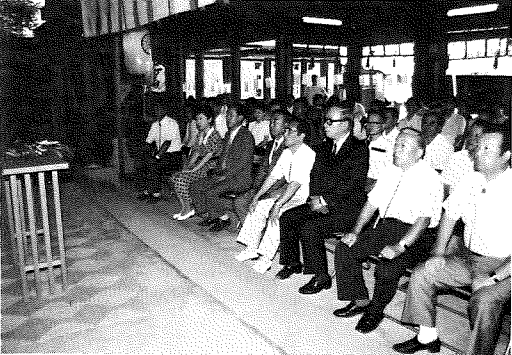


祭員並ご奉仕の青壮年部各氏



第十回 みたまま祭から

みたまま祭中日の八月十五日午前十一時半全国戦没者追悼慰霊祭を斎行致しますが、この祭典終了後の直会（なもらい）に「戦時下をしのいで粗食を」と握り飯にタクワンと味噌汁を出すようになり、四年目になります。徐々にこの終戦記念行事への出席者も増加しつつあり、握りの準備も大変になってきました。今年は特に新装の座敷、しかも冷房の効いた所での会食のためか皆さん多い目に召し上がられました。台所方も心付たもので、今年は恐らく……と見越し、青壮年部の女性陣に握り役の応援をお頼みして頂きました。今年には衆議院初当選の武村前知事も参拝され「おいしいです」とお代わり



全国戦没者追悼慰霊祭ご参列の皆様

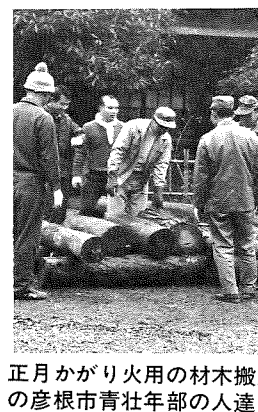
をされて頂きました。まだご賞味で無い方は是非一度ご出席下さい。

昭和六十一年
三月二十三日 彦根市青壮年部十名

十二月 十日 湖東町婦人会十八名
二十九日 尾末町老人会十二名
十二月二十二日 彦根市青壮年部六名
三十日 本殿遷座祭後片付け
正月用材木搬入奉仕

十月 三日 彦根市遺族会
五日 大祭準備 約五十名
十一日 大祭後片付け約五十名
十八日 愛東町婦人会
二十日 愛知川町婦人部
十一月 十八日 湖東町婦人会十八名
二十九日 尾末町老人会十二名
十二月 二十二日 彦根市青壮年部六名
三十日 本殿遷座祭後片付け
正月用材木搬入奉仕

境内清掃奉仕年間記録抄



正月かがり火用の材木搬入の彦根市青壮年部の人達

八月 十三日 県青壮年部約百名
十六日 みたまま祭燈準備
九月 八日 日野町青壮年部南比
二十日 草津市婦人部十五名
二十八日 八日市市婦人部十四名

十月 三日 彦根市遺族会
五日 大祭準備 約五十名
十一日 大祭後片付け約五十名
十八日 愛東町婦人部
二十日 愛知川町婦人部
十一月 十八日 湖東町婦人会十八名
二十九日 尾末町老人会十二名
十二月 二十二日 彦根市青壮年部六名
三十日 本殿遷座祭後片付け
正月用材木搬入奉仕

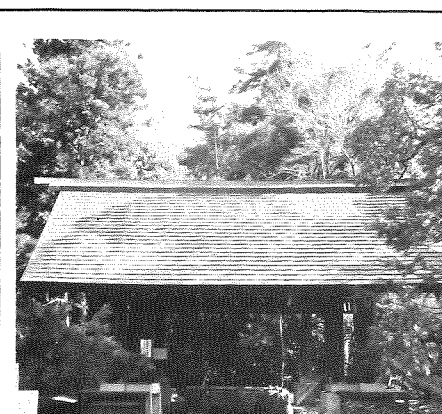
四月 三日 彦根市遺族会
五 日 彦根市遺族会
三十一日 八日市市婦人部
五月 十八日 高宮町婦人部十二名
六月 十四日 大祭後片付け
七月 三十日 愛東町婦人部
八月 九日 滋賀県傷痍軍人妻の会

三月 三十日 彦根銃剣道連盟及スポーツ少年団二十名
四月 三日 彦根市遺族会
五月 五日 彦根市遺族会
六月 十八日 大祭後片付け
七月 三十日 愛東町婦人部
八月 九日 滋賀県傷痍軍人妻の会

九月 五日 彦根市遺族会
十一月 十八日 湖東町婦人会十八名
十二月 二十二日 彦根市青壮年部六名
三十日 本殿遷座祭後片付け
正月用材木搬入奉仕



斎館入口



手水舎

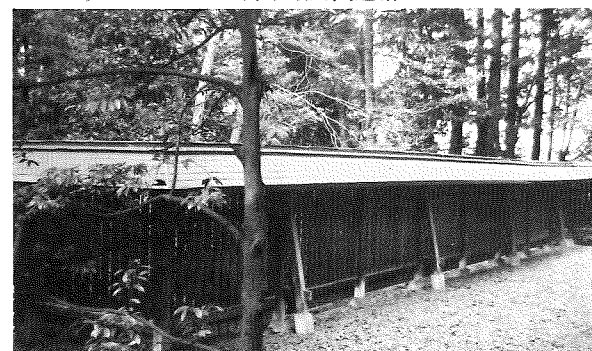


竣工奉告祭で御礼のご挨拶をする宮司

銅板に替られた御屋根

御本殿周囲透塀

御本殿



御創立百十年記念事業収支会計報告

収入	
遺族会募金	36,407,600円
一般協賛金及び社頭受付	3,681,000円
彦根市補償金	16,290,000円
その他	488,761円
計	56,867,361円

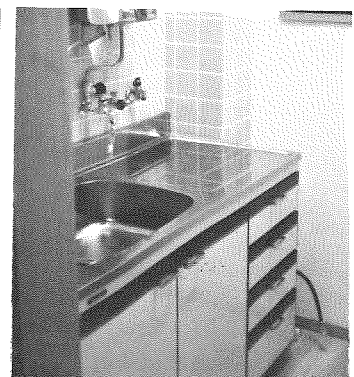
支出	
諸工事費	52,792,700円
祭典費	2,324,990円
その他諸経費	1,281,644円
計	56,399,334円
残金	468,027円は積立金へ

物品購入奉納金

県遺族会婦人部 1,000,000円
折りたたみパイプ長椅子100脚代として
彦根市遺族会婦人部 100,000円
新館湯沸器、流し台等購入に充当
八日市市遺族会婦人部 125,000円
新館用座卓20脚代として
県遺族会青壮年部有志 467,000円
新館テレビ・ビデオ等備品代として
彦根市遺族会青壮年部 362,000円
新館放送設備費として
但し、上記奉納金残金は収入の部
その他へ繰り入れ。



増築された新館の外観

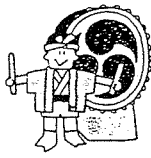


新館の広間と湯沸室

ぐん存じですか

当神社の最大の行事は春秋二季の大祭と夏のみたま祭であることは申すまでもありません。また、年間を通じて欠かすことなく慰霊安鎮のお祭りをご奉仕していることも皆様方ご承知の通りであります。

神社で行なわれる祭事には大きく別けて二通りあります。春秋の大祭を始め年間の祝祭日に行なわれる中祭、小祭等の祭典は神社が主催して皆様方にご案内を差し上げて執行するものです。これが別には皆様方が神社へ申し込まれて行なわれる祭事も数多くあるのです。大きいものは戦友会や遺族会の主催する慰霊祭、祈願祭等から、小さいものは個人で申し込まれて行なうもの(車のお祓い等の交通安全祈願祭初宮詣、七五三参りもこれに含まれるでしょう)まで、結構種類は多いのです。意外とこういうことは知られていません。知らないということは、実は知らせていないということにもなりましょう。これを機に、当社でも車のお祓いを始め種々の祈願祭をもご奉仕することをご承知おき下さい。



永代祭ご加人のおすすめ

皆様方のお申し出により執り行なわれるこの永代祭は、御祭神のご遺族、戦友等そのご関係の方であればどなたでもお申し込みになります。

最初に規定額(正会員三万円以上、特別会員五万円以上)の奉納金をお納め願ひ、それを永年に亘り積み立てて基金と致します。そしてその果実とも申すべき利子でもってこの祭典は運営されるのです。

祭典執行前には、お申し込み者宛に案内状を発送してお知らせ致します。また、仮りにご参列が無くとも慰霊の祭典は斎行され、終了後、永代祭御神符、撤下品と共にご報告申し上げます。とになっていきます。

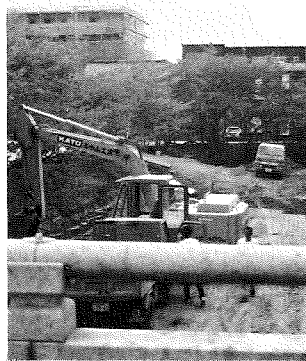
詳細は神社社務所にてお尋ね下さい。
永代祭ご加入者芳名

(昭和五十九年度以降)

- 岐阜市 荻野慶二様
- 彦根市 中村きし江様
- 三重県 一三三会戦友会
- 大津市 前田隆治様
- 近江八幡市 森藤太郎様
- 京都府 中村文子様
- 東浅井郡 脇延秀様
- 八日市市 南部ウメ様
- 萩原伝三郎様

お知らせ

◎神社正面鳥居前の彦根城外堀が、現在水を抜いて土砂を入れての工事の中で、これは、来年の古城博までに間の合わせるべく、道路整備事業の一環で、道路幅が広くなります。それと共に、鳥居前の石の橋(市道)は無用となります。しかし、神社の尊厳・景観を考慮していただいで、短くはなりますが残すことに決まりました。



◎今回の記念事業の内青壮年部奉納金の中からテレビとビデオを備えることが出来ました。新館の座敷で大勢の人でもご覧出来るように、少し大き目の画面のものを求めました。八月十五日みたま祭終戦記念式典のことがニュースで流れましたので早速収録し、ご参拝の方々にもご覧いただくことが出来ました。遷座祭のビデオもありますので、ご希望の方は気軽にお申し出下さい。皆様方に見ていただくために備えたテレビとビデオです。

後記

○社報第七号をお届けします。今号は御創立百十年記念事業関係記事を多く取りました関係上、「散策」はお休みとしますのご了承下さい。

遷座祭に御神宝の持ち役をお願いした連合支部長さん達「良い経験させて貰った」、衣装を着けた青壮年部の人達「一生の記念になる」と皆さん感激のご様子でした。神職の指導とリハールの後での本番では見事に役を務められ、予定通り終了出来ました。

○今回の諸工事で、御祭神は御本殿の屋根葺替で雨漏りの心配が無くなり、さぞかしお喜びのことと拝察されますが、ご参拝の方々の実感として「社務所の新しい便所が従来とは違って男女別々になり、臭わないし実に気持ちがいい」というご感想が多い。

○昨年四月の能舞台移築工事に始まり今年八月までの間、諸工事のために様々な人達が入りをされました。普段から人との応対には慣れている私共ですが、日常の接客の上にさらにこういった人々との対応が加わり、さすがに大変でした。諸工事の完成で喜びも一入ですが、裏方として本音を言えば、こういった応対から解放されて一息つけるということが正直なところです。

(祢宜 記)